

都市計新聞

発行者：
今井 高田
勝村 木村
谷川 松木

卒論・修論追い込みへ

提出まであとわずか

1月に入り、どの研究室も忙しさを増している。目前に迫った論文提出に向けて、更なる追い込みをかけている。学生室も深夜まで明かりがついている日が増え、これまでになく賑わいを見せているように思う。B4やM2にとっては残りわずかとなった研究室生活であり、1日1日を大切にしていきたい。

学生は皆同様に忙しくしているものの、彼らの手元の様子は様々である。実験や調査の結果が揃い、そのデータと日々睨み合っている。

者、論文執筆のため構成や表現の方法を吟味する者、ようやく実験の実施にこぎつけ、人一倍の焦りの中その準備を行う者など、皆それぞれにペースで目の前のことに全力で取り組んでいる。かく言う私も、先日研究テーマを変更せざるを得ない状況に追い込まれ、肝を冷やす思いをしたばかりである。論文の提出期限まであと僅か。今年も代もみな価値ある論文が執筆できるよ、実験が上手いこと、思い通りの結果を導ける分析ができることを願っている。



学生室の様子。こんな時期でも、困ったときには学生同士で相談し、助け合う姿がみられている。

つかの間の非日常

1月24日、日本列島にこの冬一番の寒気が流れ込んだ影響で松山市内でも昼過ぎから雪が降り始め、うっすらと雪が積もった。松山市内にも暴風雪警報が発せられ、海の便や空の便に欠航が出るなど交通機関にも大きな影響が発生した。

大学内では積もった雪で雪だるまを作った学生や雪合戦を行う学生が散見された。この日研究室のゴミ出しの日であったが、普段2人で捨てに行く量のゴミを4人ほどで捨てに行くなど、実験や卒論の執筆で忙しい中、外に出て非日常的な空気に触れる学生が多く見られた。

また、24日夜から25日朝にかけては路面凍結が発生し、学に向かう学生が凍結した路面に注意しながらそろそろと歩いていった。横断歩道や車の出入りがある歩道では雪が踏み固められやすく、タイヤの摩擦によって道路が磨かれるため滑りやすい。路面が凍結している際、転ばないコツとしては、そういう場所を滑りやすい場所を知っておくこと、小さな歩幅で靴の裏全体を付けて歩くことが挙げられる。



2号館の前に薄く積もった雪(17:00 ごろ)

都市計 OB 情報

今回は2020年度に卒業された先輩にインタビューしました。

名前 黒杭明日香
卒業年度 2020年度
勤務先 広島市役所

仕事内容
主に、道路改良工事などの発注や工事監督をしています。

研究室での思い出
研究室のイベントとして参加したバレーボール大会です。体を動かすことは研究の息抜きにもなり、楽しかったです。



学生へメッセージ
卒論・修論発表に向けて大変な時期だとはいえますが、身体を崩さないよう頑張ってください。残りの学生生活に悔いがないよう、自由な時間を十分に楽しんでください！

先生方へメッセージ
ご無沙汰しております。研究室時代には大変お世話になりました。愛媛に行ったりは、研究室にも伺いますので、よろしくお話しできます。またお話しできる日を、楽しみにしています。

社会の断面

新型コロナ「5類」に引き下げ

政府は、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけについて、今年5月8日に、季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に移行する方針を正式に決定した。「5類」に移行されると、緊急事態宣言や外出自粛要請などがなくなったことや大声を伴うイベントに参加する人数についても感染対策を行えば、定員の100%まで入場可能となる。また、マスクに関しても、屋内個人を問わず着用を要することになる。マスク着用が必要なくなることで、相手の表情を見ながらコミュニケーションを取るなど、顔の見え関係性が育まれるだろう。新型コロナウイルス感染拡大の約3年間に失われた様々な生活に還ってきつつある。

シミュレータ実験ついに始まる

年が明け、少しずつ日が沈む時間が遅くなってきた。松山では、夕方の6時前でも明るさが残るようになってきた。それでも、まだまだ暗くなり、夜を迎える時間が早いことには変わりない。

そんな周りの暗い状況では、昼間と比べて人や障害物などを発見するタイミングがどうしても遅くなってしまうだろう。そのため、例えば歩行者が道路を横断していることに気づくのが遅れ、自動車は急ブレーキを踏んで回避する、といった場面も少なくはないはずだ。また横断歩道を渡ろうと待機している歩行者に気づくのが遅くなることや、そもそも気づかずに通り過ぎてしまふことも考えられるだろう。実際に夜間の時間帯では、自動車と歩行者による死亡事故が多く発生しており、その事故の多くは、歩行者が道路を横断するときに発生している、というデータからも、夜間の横断の危険性が読み取れる。

このような背景から、私の研究では、ドライバーへの注意喚起を行うことで、道路横断中の事故を削減

することを目的としている。またドライバーへの注意喚起として、プロジェクションマッピングの投影やスポットライトによる道路の照射といった、ライトアップによる対策を行い、その効果について検討する。

現在、ライトアップによる効果を検討するために、研究室のドライビングシミュレータを用いて実験を行っている。歩行者やライトアップについての条件を変えながら設定したケースについて、その状況をシミュレータ上で再現し、それらを繋げて作成した道路を走行してもらおう、といった実験を行っている。

この実験から、速度やアクセスル、ブレーキなどの車両の挙動データの出力を行い、分析を行う。この車両の挙動データの出力には、なかなか得たいデータを出力できず、かなり苦戦していたが、様々なアドバイスをいただきながら、なんとかデータを出力できるようになった。

実験も残すところ数人となり、これからは分析を行う過程となる。期限まで

残り僅かな時間ではあるが、より良い分析を行っていきたいと考えている。最後に、提出期限が少し近づき、忙しい中、また遅い時間帯での実験である中、実験にご協力いただいた皆さんに感謝申し上げます。



実験の様子

アメリカ産戦車 エイブラムス

最近、アメリカがウクライナに戦車を供与するというニュースがあった。アメリカはウクライナへ次々と武器を送っている。歩兵戦闘車に続いて強力なロケット砲、卓越した防空システムを供与することを約束し、そして、議論の末に主力戦車「M1エイブラムス」を送ることを決めた。

戦車というものは日本に住んでいる以上、あまり身近なものではないかもしれないが、男心をくすぐるとてもかっこいいものである。今回アメリカが供与することに決めた「エイブラムス」という戦車は世界有数の高性能を誇る戦車である。重量63トン、AGT1500ガスタービンエンジンを搭載し、1500馬力で最高速度は67.6km/h、火力として主砲の120mm M256滑腔砲の他、M2.5口径機関銃、7.62mm機関銃M240を装備している。また、エイブラムスは、砲手、装填手、運転手、司令官の4人の乗員を乗せ、機動力と火力を発揮する。聞いたことがないような機関銃が搭載されて

いることと同時に戦車が重量が60tもあること、4人乗りであることも初耳である。また自動車の中で最高馬力を誇るフェラーリが800馬力であることから、エイブラムスが驚くべきパワーを誇ることが分かる。

また、戦車の戦場での役割は、もちろん火炮で敵陣地、戦車、車両等を攻撃するということであるが、一番は膠着した戦況で、敵陣を突破して新たな攻撃を仕掛けられるようにすることだということ。ウクライナに到着するのは数か月後になるかもしれないが戦況を変える一手となるかもしれない。



食品値上げ (大波)再来

食品値上げの「大波」が再び押し寄せる。昨年の値上げは年末始に落ち着いたが、店頭で商品を入れ替える春先を控えて再び活発化する。22年度は、延べ3万品目を超える記録的な値上げラッシュの1年となった。帝国データバンクが31日発表した主要食品メーカー195社の集計によると、2月の値上げは5493品目に上る。昨年のピークだった10月に次ぐ水準で、消費者の節約志向は強まるばかり。大手小売りは買い控えの動きがさらに広がりかねないという危機感を募らせ、期間限定のセールに乗り出した。

スーパーは「家庭で電気料金の負担が増え、さらに買い控えが広がる」と懸念する。全国各地の生活協同組合は、3月まで店舗と宅配で牛乳や豆腐を値下げ。西友は急激な円安がやや修正されたことを踏まえ、1月下旬から「円高還元セール」を展開している。オレンジなどの輸入食品は最大で2割引きだ。

ただ、食品値上げは収束する兆しが見えない。パンや麺類の原料になる輸入小麦の価格を据え置く政府の物価高対策は、3月末で期限を迎える。帝国データの担当者は「今年も価格転嫁を断せざるを得ない」と予測する。